



41:37 このことは、ファラオとすべての家臣たちの心になかった。

41:38 そこで、ファラオは家臣たちに言った。「神の霊が宿っているこのような人が、ほかに見つかるだろうか。」

41:39 ファラオはヨセフに言った。「神がこれらすべてのことをおまえに知らされたからには、おまえのように、さとくて知恵のある者は、ほかにはいない。

41:40 おまえが私の家を治めるがよい。私の民はみな、おまえの命令に従うであろう。私がまさっているのは王位だけだ。」

41:41 ファラオはさらにヨセフに言った。「さあ、私はおまえにエジプト全土を支配させよう。」

41:42 そこで、ファラオは自分の指輪を指から外してヨセフの指にはめ、亜麻布の衣服を着せ、その首に金の首飾りを掛けた。

41:43 そして、自分の第二の車に彼を乗せた。人々は彼の前で「ひざまずけ」と叫んだ。こうしてファラオは彼にエジプト全土を支配させた。

41:44 ファラオはヨセフに言った。「私はファラオだ。しかし、おまえの許しなくしては、エジプトの国中で、だれも何もすることができない。」

41:45 ファラオはヨセフにツァフェナテ・パネアハという名を与え、オンの祭司ポティ・フェラの娘アセナテを彼の妻として与えた。こうしてヨセフはエジプトの地を監督するようになった。

ヨセフの身に驚くことが起こりました。十数

年間エジプトに過ごし、奴隷の身でありましたが、ここで王に告ぐ権力者になったのです。ヨセフは奴隷としてエジプトに来てから、初期を除いては全くその身分に改善はありませんでした。一般的に人は誰も、「少しずつでも人生を良くしていきたい」と願うものですが、それからしたらヨセフの人生は裏切られる連続だったのです。しかしそれも神様のご計画にあったことです。

ヨセフは単に夢を解き明かすだけでなく、王にききんを乗り切る方策を提案しています。これはかつて農業に携わっていたこと、またポティファルのもとで管理者であったこと、そしてもしかしたら獄中で思索することなどによって得た知恵であったと思われます。主の導かれる人生や境遇に決して無駄なものはないのです。

また王はヨセフを全く信頼しましたが、それはヨセフが神様に従い信頼してきたことと深く関係しているでしょう。彼は策略をもって目的を成し遂げようとはしません。また自分の目的のために人を利用しようとはしません。王は彼の人間性を信頼したのですが、それは神様への信仰の賜物です。

主への純粋な信仰によって、来るべき主からの解決と希望の日に備えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

